

令和6年度 京都大学一般選抜 出題意図等

国語（文系）

- ・「出題意図等」とは、出題意図または標準的な解答例のことです。
- ・入学試験問題の満点や配点については、試験問題に記載のとおりです。
- ・各学部における個別学力検査の配点については、一般選抜学生募集要項に記載のとおりです。
- ・標準的な解答例については、ここに示す表記に限るものではありません。
- ・「出題意図等」についての質問および問い合わせには対応いたしません。

出題意図 国語（文系）

大問一

出題意図（問題一全体）

問題文は、筆者がロシア語学習経験を通して感じた楽しさと、その楽しみの内実に対する筆者なりの分析を、オクジャワの不思議な詩に関する考察を通して語るものである。新しい言語の学習によって、従来の自分の思考の殻が掘り崩され、これまでとは異なる世界の見え方とともに新しい自分が丸ごと再生してくるような感覚を覚える、というダイナミックな体験を、独自の清新な表現で的確に捉えていて魅力的である。言語学習に限らず、思考や認識を大きく揺さぶられ、新しい世界の見え方を何度も体験する喜びは、これから学問を志す受験生にも共有してもらいたいところである。

本文は平易な行文でユーモラスに綴られてはいるが、メタファーやアナロジーを用いているほか、段階的に思考を深めていくという奥行きを持っており、設問に対する解答を適切に書くことは容易ではない。各小問では、本文の議論の流れに即しつつも、本文の表現を単に引き写すのではなく、解答者なりの理解を適切に盛り込んだ表現で、わかりやすく説明できるかを問うた。

出題意図（個別問題）

問一：筆者がロシア語を学んだ際に、思考の根本から再構築されるような衝撃を受

けた体験について、前後の表現を理解し簡潔にまとめる能力を問うた。「真っ白」

「浮き輪」「海」といった比喻表現を手がかりに、何に幸福を覚えているのかをきちんと説明することが求められる。単に本文中の表現を拾って傍線部を繰り返している解答の評価は低かった。

問二：進路選択の際に「逃げ場がないような崖っぷち」を探していた、ということ、を、わざわざ「加えて」説明する筆者の心情について、文脈を踏まえて的確に表現する能力を問うた。曾祖父のエピソードからどんな心情を説明しようとしているのかを察知する必要がある。

問三：自身のロシア語学習の経験を、より抽象的・普遍的な言語学習時の体験として再検討する箇所について、比喻表現の意味内容を的確に説明する能力を問うた。

問一の繰り返しにならず、とりわけ「見知った世界に新しい名前がついていく」を、どう普遍的な事象としてかみ砕いて説明できるかが鍵となる。

問四：歌の解釈が通常様々にある中で、筆者が別の層の次元に解釈を推し進めていく箇所について、筆者の解釈の重点が言語学習とのアナロジーの関連にあることを理解し、わかりやすく説明する力を問うた。

問五：新しい言語の学習が新しい世界の見え方を開くように、不思議な詩の言語を理解する過程にも新しい意味を開いていく喜びがある、と語った筆者が、それでいてなおも言語と意味との関連には多くの謎が残り、だからこそ面白いと含みを持たせる箇所について、詩の言葉を引用しながらその含みを説明する力を問うた。辞書通りの意味を疑うことで、言語同士の今までにないつながりからある種の真理に迫

ったと感じたものの、その真理はまた手元からすり抜けていってしまう、というもどかしさを、段階を踏んで説明する必要がある。前後の表現を単純な言い換えでつないだ解答の評価は低かった。

大問二

出題意図（問題二全体）

問題文は、「永遠」という言葉をキーワードに、筆者が自身の美学を語る歴史的仮名遣いの文である。次第に深まる筆者の思索を正確に理解する読解力と、やや抽象的な本文の内容を、本文の引き写しではなく、わかりやすく言い換えて説明する表現力とを問うた。

出題意図（個別問題）

問一：筆者にとっての芸術がいかなるものであるかを読み取ることで、どのように「至極当然」であるのか明確に説明する能力を問う。

問二：本文中「ニヒル」がどのような意味か、前後の文脈を踏まえて明確に説明する能力を問う。

問三：芸術における永遠とは「感覚」であるとはどういうことか、「時間」ではないとはどういうことか、本文の内容を踏まえて的確に説明する能力を問う。

問四：独自の大きさを持つ芸術作品とはどのような芸術作品か、なぜ直ちに人々に受け入れられないと筆者は考えるのか、本文の内容を踏まえて的確に説明する能力を

問う。

問五：ここでの「明滅の美」とはいかなる美であるのか、なぜ真に大なるものを生むことができるとされるのか、本文の内容を踏まえ的確に説明する能力を問う。

大問三

出題意図（問題三全体）

鎌倉時代の日記を題材として、古語および古典文法の基本的な知識に基づいて、本文を正確に読解した上で、現代語訳や内容説明を的確に行う力を問う。

出題意図（個別問題）

問一： 前後の文脈から、何に「めぐりあ」ったのかを読み取り、「つれなく」の意味するところも含めて適切に説明する力を問うた。

問二： 傍線部で省略されている主語や目的語などを補って、文意を明確にしつつ現代語訳することを求める。

問三： 和歌に託された作者の心情を読み取り、掛詞にも留意して現代語訳することを求める。

問四： 「いづ方」の指すところを読み取った上で、傍線部全体を、本文に即して言葉を補って説明することを求める。

問五： 作者の心境が変化した理由を、直前の和歌が詠まれた状況や、和歌の内容を踏まえて説明することを求める。